

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2023年
9月1日
第155号



アザミゲシ（ケシ科）

第二圃場で黄色い花が咲いています。メキシコ原産、日本には江戸時代末期に渡来したそうです。現在では各地に帰化植物として生息しています。葉に棘があり、アザミに似ていることから名付けられました。

メキシコでは全草を民間薬として使用し、その滲出液を鎮痛、瀉下、マラリアの治療に使用するそうです。また、茎や葉を傷付けると黄色い乳液が染み出し、それを乾燥させたものも鎮痛を目的に使用するそうです。種子から得られる搾油は、属名からアルゲモネ油と呼ばれ、食用にはならず灯油や石鹼の製造に使うそうです。ケシ科に属するだけあって、モルヒネは含まれないものの、サンギナリンやコプチシンなどのイソキノリンアルカロイドを含み、それなりの毒性がありますから、素人判断での使用は避けましょう。

ゴジカ（アオイ科）

第一圃場で朱色の花が咲いています。エングラuer、クロンキスト体系ではアオイ科で、APG4分類体系ではアオイ科に分類されているインド原産の多年草です。日本へは江戸時代中期には渡来していて、湿地や水田に生育しています。昼過ぎに開いて1日で落下する一日花で、その様子を示した「午時花」の漢名から名付けられました。ただ、新しい花を次々と咲かせるため、花期は比較的長いです。

アーユルベーダ医学では、葉を鎮痛、消炎を目的に使用するほか、茶外茶としても利用され、根を収斂、制吐、咽喉痛に使用するそうです。また中医学では、全草が午時花という名の生薬となり、清熱解毒、散瘀止血を目的に、咽喉腫痛、湿疹、打撲痛、火傷、外傷出血に使うそうです。日本では薬用とする習慣はなく、もっぱら観賞用として利用されています。